

ECONOMY TOPICS

経済トピックス

2017.6.9

No.445



平成 29 年夏のボーナス調査

—レポートの概要—

- 平成 29 年夏のボーナス支給見込額は、平均で昨年夏の実績を 4 千円上回る 37 万 2 千円となった。一方、ボーナスの希望額は平均で 49 万 6 千円となった。今夏のボーナスの伸び(見込み)は、昨年夏に比べ、「良くなる」割合が 0.3 ポイント減少、「悪くなる」が 0.3 ポイント減少し、期待指数は横ばいの 48.5 となった。
- ボーナスの使途計画は、「消費」割合が 40.1%、「貯蓄」割合が 45.4%、「返済」割合が 14.5%となった。昨年夏に比べ「消費」、「返済」割合が減少し、「貯蓄」割合は増加した。
「貯蓄」の目的をみると、昨年、一昨年夏と同様、上位 3 位は「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」、「老後の備え」、「教育」の順となった。
- 最近の暮らし向き調査では、28 年冬に比べ「良くなった」とする割合が 0.7 ポイント増加、「悪くなった」とする割合は 1.1 ポイント減少した。この結果、暮らし向き指数は 47.3 となり 0.9 ポイント上昇した。暮らし向き指数は緩やかながら改善の動きが続いている。

1. 平成29年夏のボーナス調査

(1) ボーナス受給見込額

—平均37万2千円、昨年夏の実績を4千円上回る—

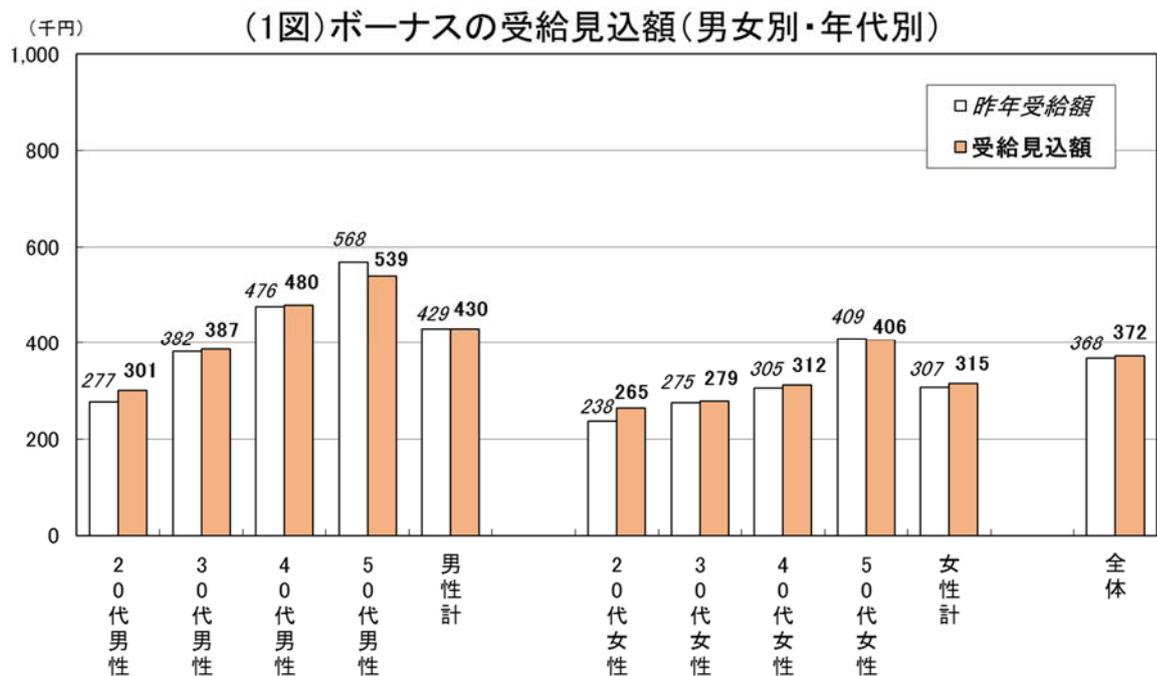
県内給与所得者に昨年夏のボーナス受給額と今夏のボーナス受給見込額を尋ねたところ、受給見込額は平均で37万2千円となり、回答者の昨年夏の受給実績(平均36万8千円)を4千円上回った。これを男女別・年代別にみると、最も見込額が多かったのは50代男性の53万9千円で、次いで40代男性の48万円、50代女性の40万6千円、30代男性の38万7千円などの順となった。

男女別の平均受給見込額を比較すると、男性が43万円、女性は31万5千円と、

男性が女性を11万5千円上回った。

年代別に今夏の受給見込額と昨年夏の受給実績との開きをみると、20代、30代、40代は男性、女性ともに見込額が受給実績を上回った。一方、50代は男性、女性ともに下回る見込みとなっている。その差額をみると、全体的に小幅であったが、20代男性(2万4千円上回る)、20代女性(2万7千円上回る)、50代男性(2万9千円下回る)の開きの大きさが目立った。

(以上、1図参照)



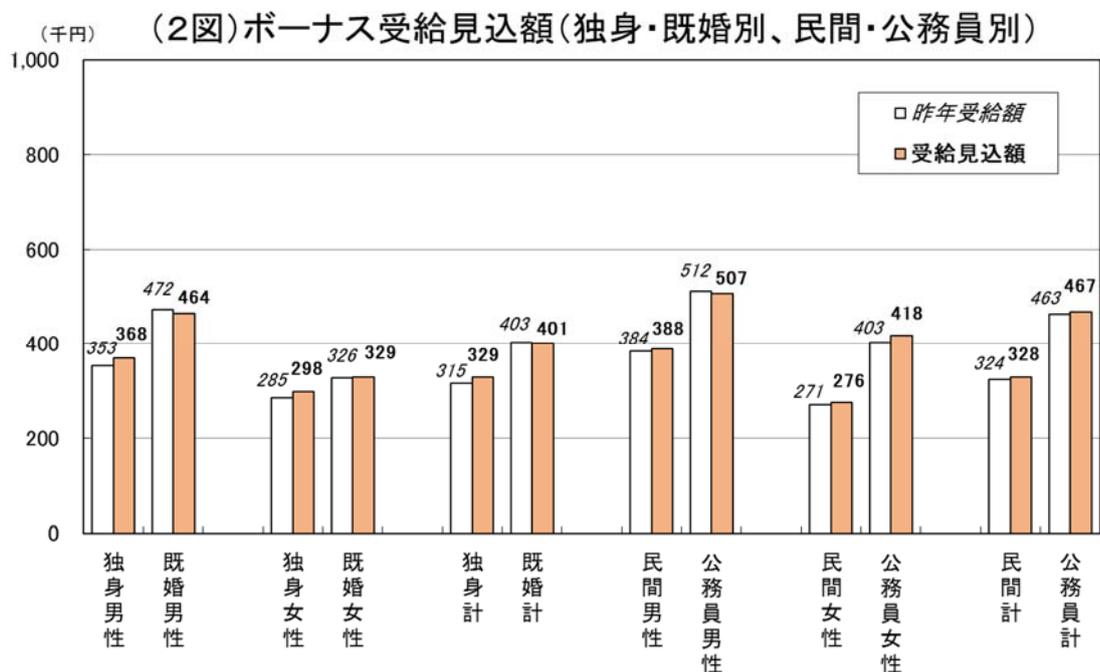
※本文、グラフの「20代」は20歳未満、「50代」は60歳以上を含む、以下同様

次に、平均受給見込額を独身・既婚別にみると、独身者が32万9千円、既婚者が40万1千円となった。昨年夏の受給実績と比べると、独身者が1万4千円上回り、既婚者は2千円下回ると見込んでいる。独身者は男性の見込額が受給実績を1万5千円、女性は1万3千円上回った。

一方、既婚者は男性が8千円下回り、女性は3千円上回った。

民間・公務員別でみると、民間が32万8千円、公務員が46万7千円となった。昨年夏の受給実績と比べると民間、公務員ともに4千円上回ると見込んでいる。

(以上、2図参照)



(2) ボーナスの希望額

—ボーナス希望額は平均 49 万 6 千円—

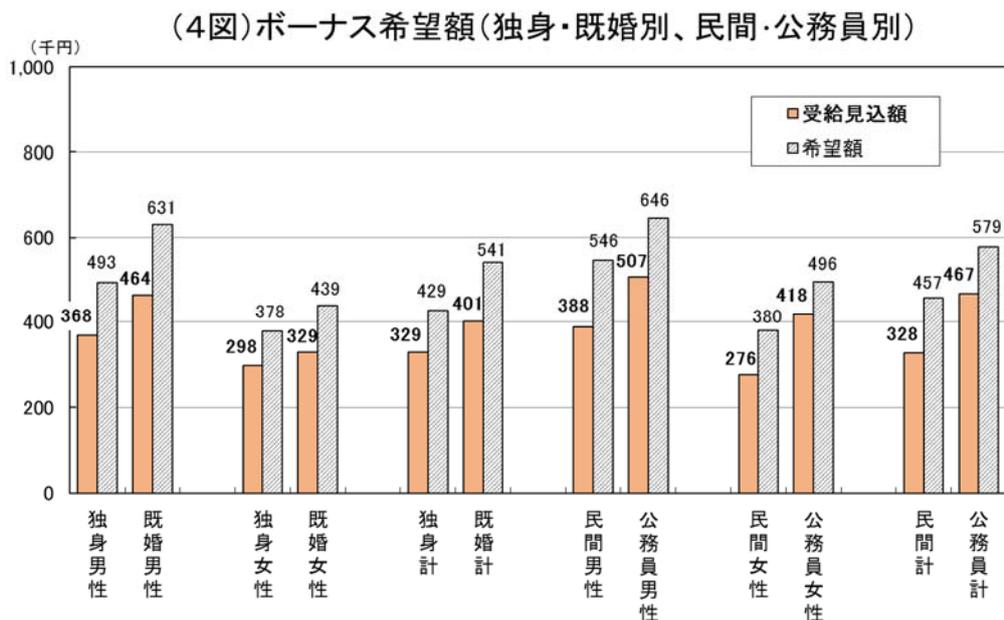
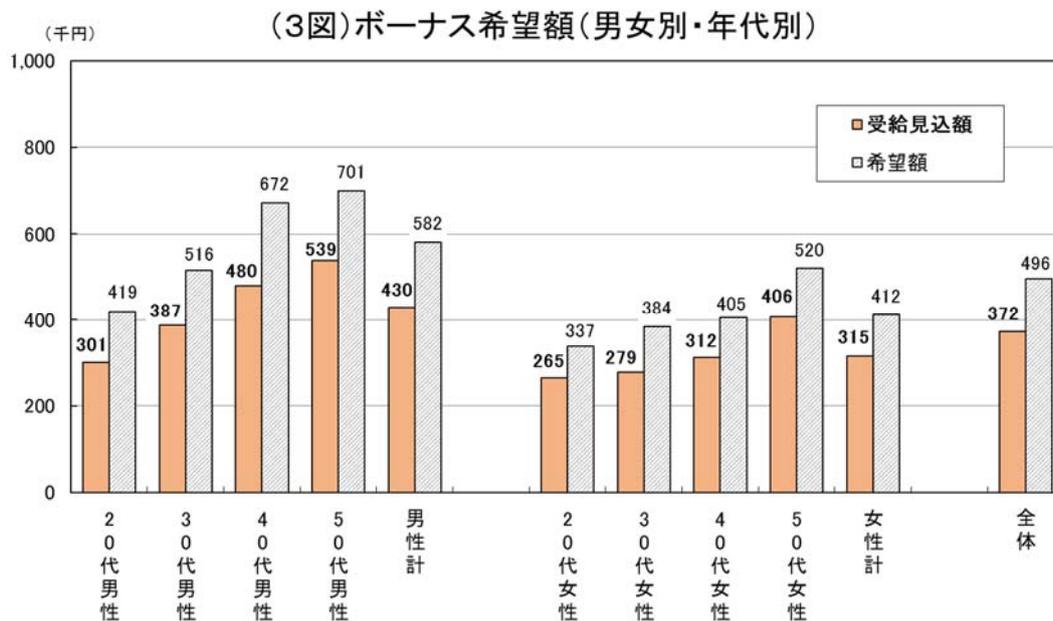
今夏のボーナス希望額は全体の平均で 49 万 6 千円となり、受給見込額 37 万 2 千円と 12 万 4 千円の開きがみられた。

平均希望額を男女別・年代別にみると、男性が 58 万 2 千円、女性は 41 万 2 千円となった。最も多かったのは 50 代男性であり、次いで 40 代男性、50 代女性などの順となった。

希望額と受給見込額との開きを男女別にみると、男性が 15 万 2 千円、女性は 9 万 7 千円となった。

なお、独身・既婚別にみると、既婚者は独身者に比べ開きが大きく、民間・公務員別では民間が公務員に比べ開きが大きかった。

(以上、3、4 図参照)



(3) ボーナスの伸びについて

—期待指数 48.5、昨年夏と同水準—

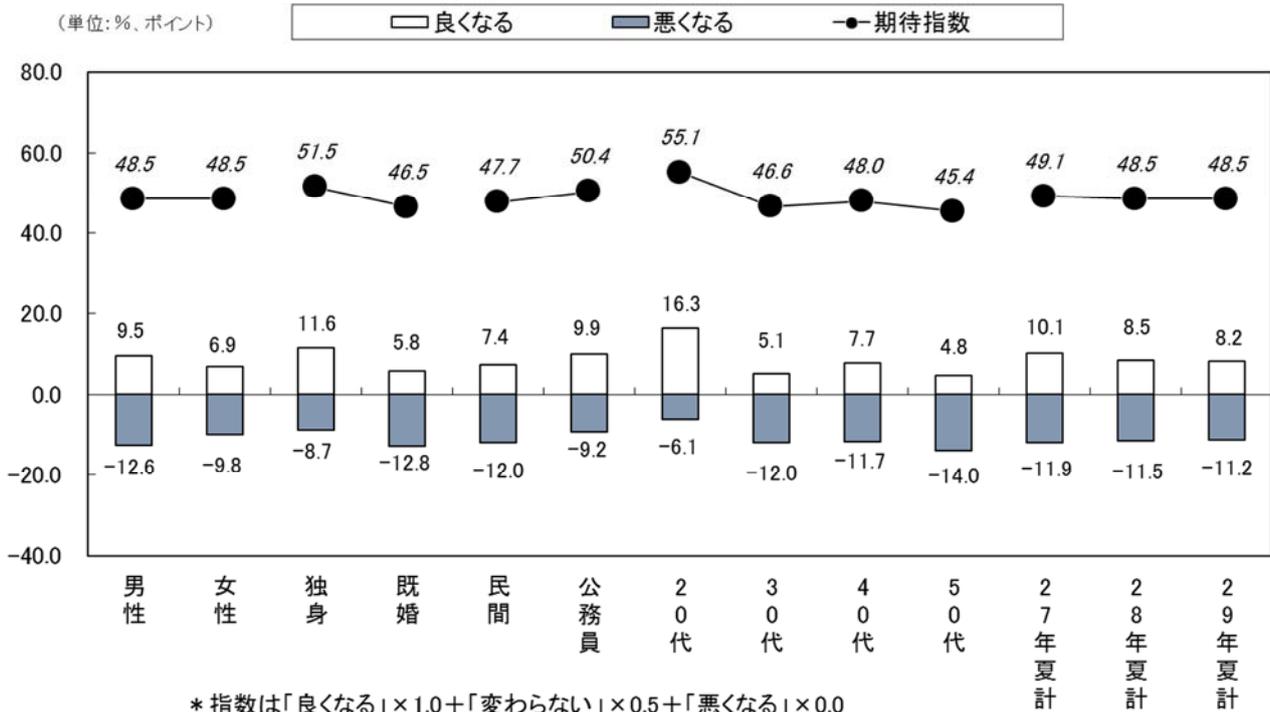
今夏のボーナスの伸びは昨年夏に比べてどうなるかについて、「良くなる」、「変わらない」、「悪くなる」の三つの選択肢で回答してもらった。ボーナスの伸びが「良くなる」との回答は全体の8.2%、「悪くなる」が11.2%、「変わらない」が80.6%となった。この結果、ボーナスの伸びに対する期待指数(5図、注記参照)は48.5となった。

昨年夏に比べ、「良くなる」が0.3ポイント減少、「悪くなる」が0.3ポイント減少し、期待指数は横ばいとなった。

属性別にみると、30代以上では「悪くなる」の割合が「良くなる」を上回っている。一方、20代、独身は「良くなる」が「悪くなる」を上回っており、若年層の伸びが目立っている。

(以上、5図参照)

(5図) ボーナスの伸び



(4) ボーナスの使途計画

— 「消費」、「返済」割合が減少、「貯蓄」割合は増加—

この夏のボーナスの使途計画は、「消費」割合が40.1%、「貯蓄」割合が45.4%、「返済」割合が14.5%となった。昨年夏に比べると、「消費」割合が0.3ポイント減少、「返済」割合が1.2ポイント減少し、「貯蓄」割合は1.5ポイント増加した。

属性別にみると、男女別では女性が「消費」、「貯蓄」割合、男性は「返済」割合が高かった。独身・既婚別では独身者が「消費」、「貯蓄」割合、既婚者は「返済」割合が高かった。民間・公務員別では民間が「消費」、「貯蓄」割合、公務員は「返

済」割合が高かった。

年代別にみると、「消費」割合は20代が43.5%で最も高く、最も低い30代の37.1%と6.4ポイントの開きがみられた。

「貯蓄」割合は30代が50.0%で最も高かった。「返済」割合は40代が17.6%、50代が17.4%とともに高い割合となった。

「返済」の内訳をみると、自動車ローンは20代、住宅ローンは40代、50代の割合が高かった。

(以上、1表、6図参照)

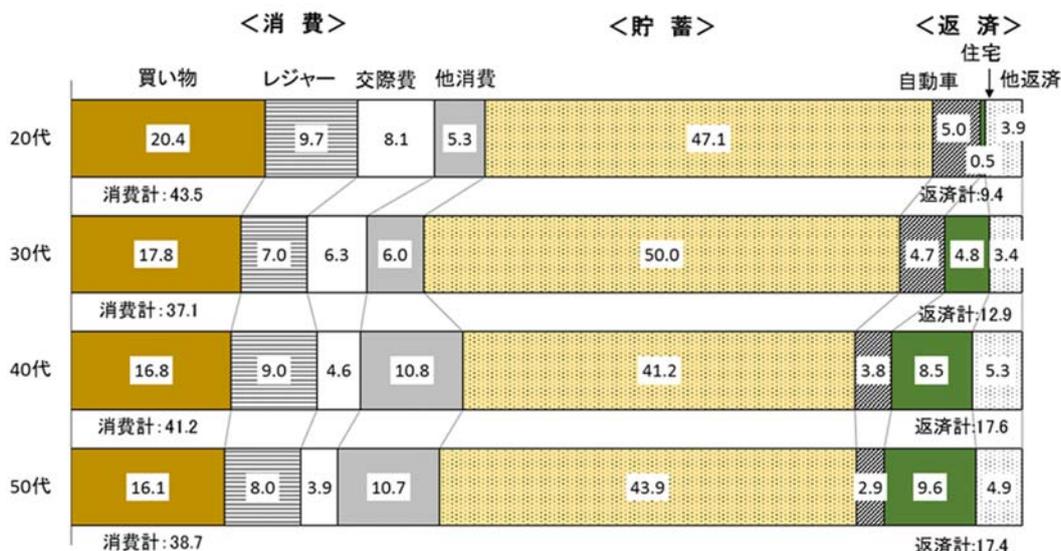
(1表) ボーナスの使途計画

(単位:%)

	消費割合					貯蓄割合	返済割合			
	買い物	レジャー	交際費	その他	自動車		住宅	その他		
男性	39.4	16.5	8.5	5.7	8.7	44.2	16.4	4.7	8.0	3.7
女性	40.8	18.8	8.4	5.5	8.1	46.5	12.7	3.5	4.3	4.9
独身者	43.3	20.8	8.5	7.1	6.9	46.4	10.3	4.5	1.9	3.9
既婚者	37.9	15.5	8.4	4.6	9.4	44.7	17.4	3.8	9.0	4.6
民間	40.8	18.4	8.4	5.5	8.5	45.6	13.6	3.9	5.1	4.6
公務員	38.4	16.1	8.4	5.9	8.0	44.8	16.8	4.5	8.3	4.0
29年夏計	40.1	17.7	8.4	5.6	8.4	45.4	14.5	4.1	6.1	4.3
28年夏計	40.4	16.7	8.7	5.9	9.1	43.9	15.7	5.1	5.8	4.8
27年夏計	37.3	15.6	8.6	4.9	8.2	46.2	16.5	4.2	7.0	5.3

(6図) 年代別ボーナスの使途計画

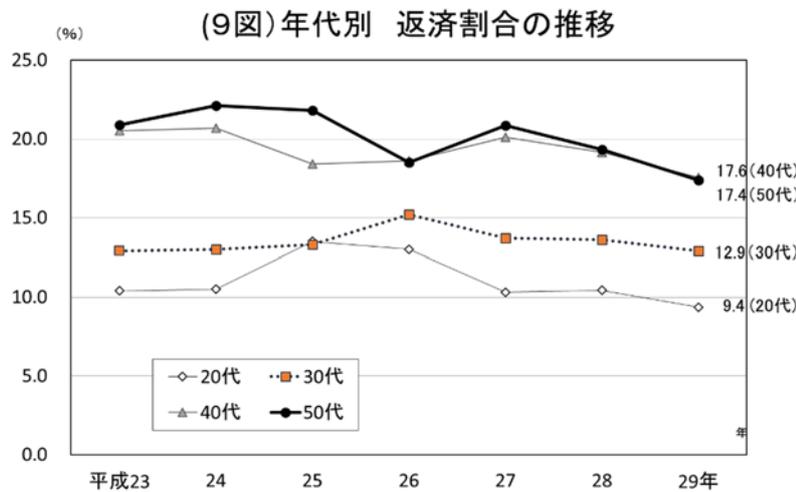
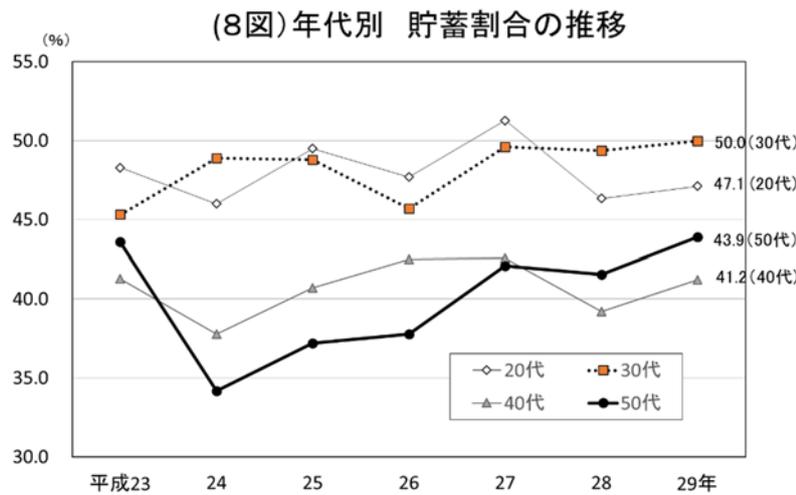
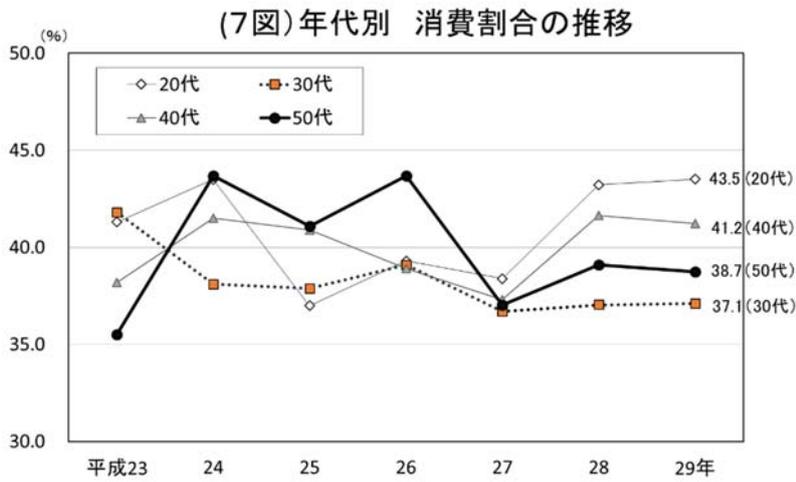
(単位:%)



夏のボーナスの使途計画についてそれぞれの割合の推移を年代別にみると、平成29年は昨年夏に比べ全体に各項目、各属性とも小幅な変化にとどまった。「消費」割合は20代、30代で増加、40代、50代

で減少した「貯蓄」割合は全ての年代で増加がみられた。「返済」割合は全ての年代で減少した。

(以上、7、8、9図参照)



(5) 貯蓄の目的

— 「安心だから」、「老後の備え」、「教育」が上位3位—

貯蓄の目的(複数回答)は、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が36.2%で最も高く、以下「老後の備え」が36.0%、「教育」が29.2%などと続いた。昨年、一昨年夏と同様、この3項目が上位3位を占め、順位も同じであった。「安心だから」が昨年夏に比べ4.1ポイント減少し、「老後の備え」は0.1ポイント、「教育」は1.1ポイントそれぞれ増加した。また、「旅行」は1.8ポイント増加した。

男女別にみると、男性は「住宅」、「耐久消費財」の割合が女性に比べ高かった。一方、女性は「老後の備え」がトップとなった。また、「病気の備え」、「旅行」が男性を上回った。

独身・既婚別では、独身者は「安心だから」の割合が約5割となり、「旅行」が3位となった。一方、既婚者は「教育」、「老後の備え」の割合が高く、ともに4割を超えた。

(以上、2表参照)

(2表)貯蓄の目的(複数回答)

(単位:%)

	男性	女性	独身	既婚	29年夏計	28年夏計	27年夏計
住 宅	16.8	10.3	8.0	17.4	13.5	14.2	13.3
教 育	(3) 30.7	(3) 27.8	6.1	(1) 45.6	(3) 29.2	(3) 28.1	(3) 30.8
結 婚	9.8	6.5	19.3	0.2	8.1	8.7	8.4
旅 行	19.8	25.3	(3) 24.8	21.0	22.6	20.8	24.0
耐久性消費財	11.9	9.8	9.2	11.9	10.8	10.9	12.3
病気の備え	9.8	16.3	11.3	14.3	13.1	12.5	13.6
老後の備え	(2) 32.7	(1) 39.1	(2) 28.2	(2) 41.4	(2) 36.0	(2) 35.9	(2) 36.2
安心だから	(1) 35.8	(2) 36.6	(1) 49.7	(3) 26.7	(1) 36.2	(1) 40.3	(1) 37.3

2. 最近の暮らし向き調査

—暮らし向き指数、緩やかながら改善の動きが続く—

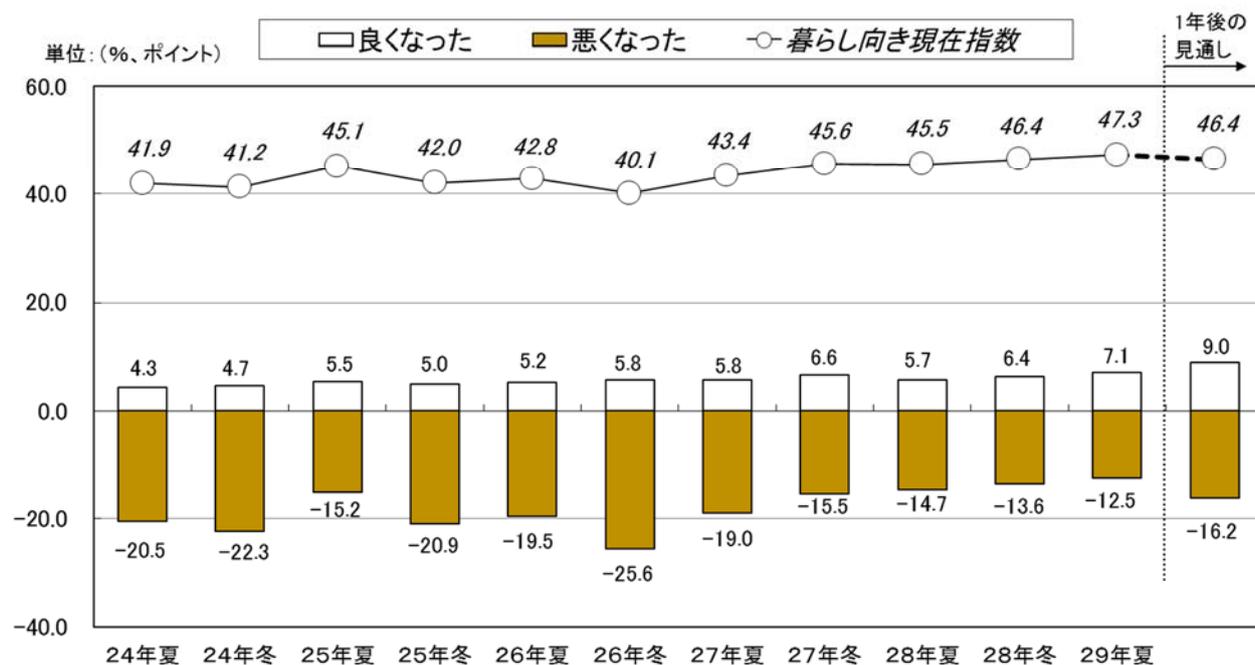
まず、「昨年の今頃に比べ、最近の暮らし向きはいかがですか」と尋ねたところ、28年冬に比べ「良くなった」とする回答が0.7ポイント増加の7.1%、「悪くなった」は1.1ポイント減少の12.5%、「変わらない」が0.4ポイント増加の80.4%となった。この結果、「現在の暮らし向き指数」

(3表、注記参照)は47.3と、28年冬に比べ0.9ポイント上昇した。

「暮らし向き指数」は11期(半期毎)連続で40.0を超えた。全体としては力強い上向き感には欠けるものの、緩やかながら改善の動きが続いている。

(以上、10図参照)

(10図)暮らし向き指数の推移



男女別、年代別など各属性をみると、20代は「良くなった」の割合が10%を超え、「悪くなった」を上回った。他の属性は「悪くなった」が「良くなった」を上回っているが、割合はこのところ全体に減少傾向にある。

次に「1年後の暮らし向きはどうかと考えますか」との問いに対しては、「今後良くなる」が9.0%、「今後悪くなる」が16.2%、「変わらない」が74.8%となった。この結果、暮らし向きの「今後指数」は

「現在指数」を0.9ポイント下回る46.4と、幾分ではあるが低下する見通しとなっている。

年代別にみると、50代は「悪くなる」の大幅な増加から今後指数が低下し、厳しさが増す見通しである。一方、20代、30代は「良くなる」の増加から「今後指数」が上昇しており、若年層においては暮らし向き改善への期待感がうかがわれる。

(以上、3表参照)

(3表)現在の暮らし向きについての見方(属性)

(単位:%.ポイント)

	現在 良くなった	→	今後 良くなる	現在 変わらない	→	今後 変わらない	現在 悪くなった	→	今後 悪くなる	現在 指数	→	今後 指数
男性	9.7	→	10.8	79.5	→	76.8	10.8	→	12.4	49.4	→	49.2
女性	4.6	→	7.3	81.3	→	72.9	14.2	→	19.8	45.2	→	43.8
独身	9.2	→	11.8	79.5	→	74.2	11.3	→	13.9	49.0	→	48.9
既婚	5.6	→	7.1	81.0	→	75.2	13.4	→	17.7	46.1	→	44.7
民間	7.1	→	7.8	79.4	→	75.1	13.5	→	17.1	46.8	→	45.4
公務員	7.1	→	11.7	82.6	→	74.1	10.3	→	14.2	48.4	→	48.8
20代	10.1		14.1	81.3		77.3	8.6		8.6	50.8		52.8
30代	9.0	→	12.4	79.9	→	74.7	11.1	→	12.9	48.9	→	49.8
40代	5.9		6.6	79.9		77.7	14.3		15.8	45.8		45.4
50代	3.9		3.9	80.8		69.4	15.3		26.6	44.3		38.6
全体	7.1	→	9.0	80.4	→	74.8	12.5	→	16.2	47.3	→	46.4

注) 現在指数=「良くなった」×1.0+「変わらない」×0.5+「悪くなった」×0.0

今後指数=「良くなる」×1.0+「変わらない」×0.5+「悪くなる」×0.0

以上

【調査要領】

- 調査対象者 県内在住の男女給与所得者
- 調査時期 平成 29 年 5 月中旬～5 月下旬
- 配布・回収枚数 配布枚数 1,000 枚
回収枚数 937 枚 (回収率 93.7%)

回答者内訳

(単位:人)

属性	男性	女性	合計
20代	99	99	198
30代	116	119	235
40代	121	152	273
50代	118	113	231
独身	162	220	382
既婚	292	263	555
民間企業	296	358	654
公務員	158	125	283
合計	454	483	937

注:20代は20歳未満、50代は60歳以上を含む

※本件に関する照会先

一般財団法人 青森地域社会研究所

担当:主任研究員 野里和廣

TEL.017-777-1511